

- 問1 日本銀行が実施する「金融政策」について、不況時に景気を下支えるために行われる具体的な仕組みとして、適切なものはどれですか。(2018年 愛知公立入試 類似)
1. 日本銀行が国債を買い入れ、市場の資金量を増やして金利を低下させる。
 2. 日本銀行が国債を売却し、市場の資金量を減らして物価の上昇を抑える。
 3. 政府が減税を実施することで、家計が自由に使えるお金を増やして消費を促す。
 4. 政府が所得税の累進課税を強化することで、所得の再分配を促進する。
- 問2 不況（景気後退）の際、日本銀行が景気を刺激するために、民間の金融機関との間で行う「買いオペレーション」の仕組みとして、最も適切なものはどれですか。(2024年 香川公立入試 類似)
1. 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。
 2. 日本銀行が民間金融機関に国債などを売却し、代金を回収することで市場の通貨量を減らす。
 3. 日本銀行が政府から直接国債を買い取り、公共事業のための予算を増やすことで消費を促す。
 4. 日本銀行が各金融機関の預金準備率を引き上げることで、銀行が貸し出せる資金の量を制限する。
- 問3 不景気の際、日本銀行は景気を刺激するために市場を流通する通貨の量を調整する「公開市場操作」を行います。このとき、日本銀行が一般の金融機関を相手に行う操作として正しいものはどれですか。(2024年 京都公立入試 類似)
1. 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を増やす。
 2. 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を減らす。
 3. 日本銀行が持っている国債を一般の金融機関に売り、市場の通貨量を増やす。
 4. 日本銀行が持っている国債を一般の金融機関に売り、市場の通貨量を減らす。
- 問4 日本銀行には3つの大きな役割がありますが、そのうちの一つについて「国庫金の受払事務や、国債の発行・管理といった、国の資金を取り扱う業務」を指す言葉として、最も適切なものはどれですか。(2018年 大分県公立入試 類似)
1. 政府の銀行
 2. 銀行の銀行
 3. 発券銀行
 4. 市民の銀行
- 問5 日本における唯一の中央銀行であり、一国の金融組織の中核を担う銀行を何といいますか。(2020年 山形県公立入試 類似)
1. 日本銀行
 2. ゆうちょ銀行
 3. 信託銀行
 4. 日本政策金融公庫
- 問6 企業が株式や債券を発行し、証券会社などを仲介役として、家計などの投資家から直接資金を調達する金融の仕組みを何といいますか。(2025年 岡山公立入試 類似)
1. 直接金融
 2. 間接金融
 3. 公開市場操作
 4. 預金通貨
- 問7 景気変動のモデル図において、経済活動が停滞し、景気の「谷」にあたる時期に日本銀行が実施する金融政策について述べたものとして、最も適切なものはどれですか。(2017年 奈良公立入試 類似)
1. 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策
 2. 日本銀行が一般の銀行に国債を売り、市場に流通する通貨量を減らす政策
 3. 政府が所得税や法人税の税率を引き上げ、景気の過熱を抑制する政策
 4. 日本銀行が紙幣の発行を停止し、民間の経済活動を制限する政策
- 問8 銀行、家計、企業の間で行われる資金のやり取りにおいて、銀行が果たす役割と「利子」の仕組みについての説明として最も適切なものはどれですか。(2024年 島根公立入試 類似)
1. 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。
 2. 銀行は企業から受け取った利子の全額を、手数料としてそのまま政府の財源に充てなければならない。
 3. 企業が銀行から借りた資金の対価として支払うのは「配当金」であり、これは企業の業績が悪化しても支払額が変わることはない。
 4. 家計は銀行に預金を行うことで、企業の経営に直接参加する権利を得る代わりに、利子を受け取ることができなくなる。
- 問9 日本銀行がインフレーションを抑制するために金利を上げる「金融引き締め」を行った場合、その影響として予測される社会の動きについて述べたものとして正しいものはどれですか。(2024年 北海道公立入試 類似)
1. 住宅ローンの金利が上昇するため、住宅を購入しようとする個人が減り、不動産市場の過熱が収まる。
 2. 銀行の預金金利が下がるため、人々は貯蓄をせずに消費を増やすようになり、景気がさらに良くなる。
 3. 企業の利息負担が軽くなるため、新しい工場や機械を導入する設備投資が活発になり、雇用が増加する。
 4. 円の価値が相対的に低くなるため、輸出企業の国際競争力が高まり、日本からの輸出額が大幅に増加する。
- 問10 市場において物価が継続的に上昇する現象が起こった際、私たちの生活や経済に与える影響として最も適切な説明を選びなさい。(2024年 宮崎公立入試 類似)
1. 商品の価格が上がることで、相対的にお金の購買力が低下する。
 2. 商品の価格が上がることで、相対的にお金の購買力が向上する。
 3. 物価の変動に合わせてお金の価値も上昇するため、生活水準は変わらない。
 4. 物価の上昇は商品の価値が高まったことを意味し、お金の価値には影響しない。
- 問11 日本銀行が実施する「売りオペレーション」が、経済全体にどのような影響を及ぼすことを目的としているか、その仕組みと因果関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。(2019年 新潟県公立入試 類似)
1. 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、企業や個人の資金借入を抑制して景気を落ち着かせる。
 2. 市場の通貨量を増やすことで金利を低下させ、企業が設備投資を行いやすい環境を整えて景気を刺激する。
 3. 市場の通貨量を一定に保つことで為替相場を安定させ、輸出入のバランスを改善して物価の安定を図る。
 4. 市場の通貨量を急激に増やすことで物価を上昇させ、企業収益を向上させることで所得の増大を目指す。
- 問12 現代の経済における資金調達の仕組みについて、直接金融の特徴を説明したものとして適切なものはどれか。(2022年 愛知公立入試 類似)
1. 企業が株式や債券を発行し、金融機関を介さずに投資家から直接資金を調達する仕組み。
 2. 銀行などの金融機関が預金者から集めた資金を、自らの責任で企業に貸し出す仕組み。
 3. 日本銀行が景気を調節するために、一般の銀行に対して資金の貸し出しを行う仕組み。
 4. 国や地方公共団体が公共サービスの資金を賄うために、国民から強制的に徴収する仕組み。
- 問13 銀行が主な収益を得る仕組みにおいて、預金者に対して支払う利子と、融資先から受け取る利子の関係についての説明として、最も適切なものはどれですか。(2024年 静岡公立入試 類似)
1. 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。
 2. 預金に支払う利子の利率を、融資で受け取る利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。
 3. 預金に支払う利子と融資で受け取る利子を常に同額にし、窓口での事務手数料のみを収益とする。
 4. 利子のやり取りは行わず、政府から支給される補助金のみを銀行の運営資金とする。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本銀行が国債を買い入れ、市場の資金量を増やして金利を低下させる。	中央銀行である日本銀行が、公開市場操作（オープン・マーケット・オペレーション）を通じて通貨供給量を調整することを金融政策と呼びます。景気が悪いときには、日本銀行が市場から国債を買い入れることで、世の中に出回るお金の量を増やし、金利を下げることで景気を刺激します。なお、減税や公共事業などは政府が行う「財政政策」であり、日本銀行が行う金融政策とは区別されます。
問2	答え 1 日本銀行が民間金融機関から国債などを買い入れ、代金を支払うことで市場の通貨量を増やす。	不況のとき、日本銀行は市場に流通する通貨（お金）の量を増やすことで経済を活性化させようとします。これを「買いオペレーション」と呼び、日本銀行が民間金融機関から国債を買い取ることで、その代金が市場に供給され、資金の循環を促す仕組みです。対して、好景気で物価が上昇しすぎた際に行われる、国債を売って通貨を回収する操作は「売りオペレーション」と呼ばれます。
問3	答え 1 一般の金融機関が持っている国債を買い取り、市場の通貨量を増やす。	不景気のときには、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活発にする必要があります。日本銀行が民間の銀行（一般の金融機関）から国債を買い入れることで、その代金として日本銀行から民間の銀行へ資金が渡ります。これにより、銀行が企業や個人に貸し出せるお金が増え、消費や投資が促進されます。
問4	答え 1 政府の銀行	日本銀行は、日本で唯一の「中央銀行」としての役割を担っています。税金などの国庫金の管理や、国債（国の借金）の発行・事務を国に代わって行うことは、国という組織の資金を扱う役割であるため、このように呼ばれます。なお、一般の企業や個人は日本銀行に預金口座を持つことはできません。
問5	答え 1 日本銀行	中央銀行は、国の経済が安定するように通貨の量を調節したり、金融システムを維持したりする特別な役割を持つ銀行です。日本では日本銀行がその役割を担っており、一般の個人や企業が直接口座を作ってお金を預けることはできないという点が、民間の銀行（市中銀行）と大きく異なります。
問6	答え 1 直接金融	資金を必要とする企業が、株式や債券といった有価証券を発行し、投資家から直接資金を募る仕組みを指します。証券会社は売買の仲介を行います。銀行のように「預金を預かって貸し出す」という形態をとらない点が特徴です。これに対して、銀行が間に入り預金を活用して貸し出す仕組みは間接金融と呼ばれます。
問7	答え 1 日本銀行が一般の銀行から国債を買い入れ、市場に流通する通貨量を増やす政策	景気が落ち込んでいる時期（不景気）には、日本銀行は市場の通貨量を増やすことで景気の回復を図ります。具体的には、日本銀行が一般の民間銀行が保有している国債を買い上げる「買いオペレーション」を実施します。これにより、銀行が持つ資金が増え、企業や個人への貸し出しが促進されることで、経済活動の活性化を狙います。
問8	答え 1 家計が銀行へ預けた預金に対して、銀行は元本に利子を加えて払い戻し、企業への貸し出しに対しては元本と利子の返済を受ける。	銀行は、家計から預かった「預金」に対して利子を支払う一方で、企業への「貸し出し」の際にも利子を受け取ります。一般的に貸し出しの利率の方が預金の利率よりも高く設定されており、その差額が銀行の主な収益源となります。これにより、資金が余っている家計から資金を必要としている企業へと、効率的にお金が流れる仕組みが成り立っています。
問9	答え 1 住宅ローンの金利が上昇するため、住宅を購入しようとする個人が減り、不動産市場の過熱が収まる。	金利が上昇すると、お金を借りる際の手数料（利子）が高くなります。これにより、大きな買い物である住宅の購入を控える人が増えたり、企業が投資を縮小したりするため、景気が冷え込む方向に働きます。これは、上がりすぎた物価（インフレーション）を落ち着かせるための意図的な動きです。金利が上がれば通常、預金金利は上昇し、通貨（円）の価値は高まる傾向にあります。
問10	答え 1 商品の価格が上がることで、相対的にお金の購買力が低下する。	物価とお金の価値は、シーソーのような逆相関の関係にあります。物価が上昇するということは、それまでと同じ金額の通貨を差し出しても得られるサービスや商品の量が減ることを示しています。これを「購買力の低下」と呼び、実質的なお金の価値が目減りしている状態を指します。
問11	答え 1 市場の通貨量を減らすことで金利を上昇させ、企業や個人の資金借り入れを抑制して景気を落ち着かせる。	日本銀行が国債を売却して市場の通貨量を減らすと、資金の供給が減るため、お金を借りる際のコストである「金利（利率）」が上昇します。金利が上がると、企業は設備投資を控え、個人はローンを利用した消費を控えるようになるため、過熱した景気が抑制されるという仕組みです。これはインフレを未然に防ぐための重要な金融政策です。
問12	答え 1 企業が株式や債券を発行し、金融機関を介さずに投資家から直接資金を調達する仕組み。	直接金融は、資金の貸し手がどの企業に資金を提供するかを直接選択し、そのリスクも負うのが特徴です。これに対し、銀行が間に入って資金を融通する仕組みは「間接金融」と呼ばれます。日本では伝統的に間接金融の割合が高かったですが、近年は直接金融による調達も重要な役割を果たしています。
問13	答え 1 融資で受け取る利子の利率を、預金に支払う利子の利率よりも高く設定し、その差額を収益とする。	銀行などの金融機関は、多くの人々から預金として資金を集め、それを必要とする企業などに貸し出します。このとき、貸し出す際の利子（貸出金利）を預金者に支払う利子（預金金利）よりも高く設定することで、その差額（利ざや）を主な利益としています。これにより、銀行は組織を維持し、預金通帳の発行や振り込みといった金融サービスを提供することができます。